

ユーザ企業における認識、適用される場面や用途、課題/ニーズ、ツールの導入済み/導入予定シェア、支出額といった多角的な視点からAI活用と歩調を合わせた業務の自動化や迅速なシステム開発を実践するための成功パターンを提言

## 2024年版 中堅・中小企業におけるRPAおよびノーコード/ローコード開発ツールの活用実態レポート

本ドキュメントは「調査対象」「設問項目」および「試読版」を掲載した調査レポートご紹介資料です。

調査対象ユーザ企業属性:	「どんな規模や業種の企業が対象かを知りたい」⇒	1ページ
設問項目:	「どんな内容を尋ねた調査結果なのかを知りたい」⇒	2～13ページ
本レポートの試読版:	「調査レポートの内容を試し読みしてみたい」⇒	14～17ページ

### 【調査レポートで得られるメリット】

1. 年商/業種/従業員数/所在地といった様々な観点で市場動向を把握することができます。
2. 収録されている集計データをカタログや販促資料などに引用/転載いただくことができます。

## 調査対象ユーザ企業属性

本調査レポートでは以下のような属性に合致する1300件(有効回答件数)の中堅・中小企業を対象とした調査を行っている。

**有効サンプル数:** 1300社(有効回答件数)

**A1.年商区分:** 5億円未満(200社) / 5億円以上～10億円未満(200社) / 10億円以上～20億円未満(200社) / 20億円以上～50億円未満(200社) / 50億円以上～100億円未満(200社) / 100億円以上～300億円未満(200社) / 300億円以上～500億円未満(100社)

**A2.職責区分:** 情報システムの導入や運用/管理または製品/サービスの選定/決済の権限を有する職責

**A3.従業員数区分:** 10人未満 / 10人以上～20人未満 / 20人以上～50人未満 / 50人以上～100人未満 / 100人以上～300人未満 / 300人以上～500人未満 / 500人以上～1000人未満 / 1000人以上～3000人未満 / 3000人以上～5000人未満 / 5000人以上

**A4.業種区分:** 組立製造業 / 加工製造業 / 建設業 / 卸売業 / 小売業 / 流通業(運輸業) / IT関連サービス業 / 一般サービス業 / その他

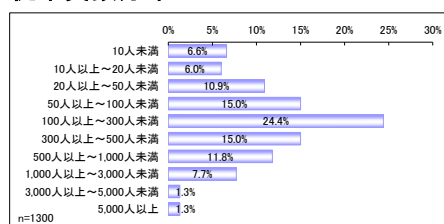
**A5.所在地区分:** 北海道地方 / 東北地方 / 関東地方 / 北陸地方 / 中部地方 / 近畿地方 / 中国地方 / 四国地方 / 九州・沖縄地方

**調査実施時期:** 2024年7月～8月

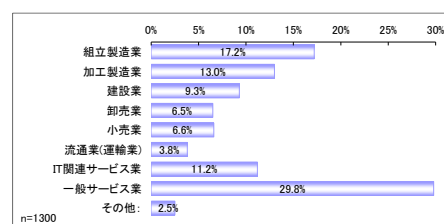
上記に加えて、「**A6.IT管理/運用の人員規模**」(IT管理/運用を担う人材は専任/兼任のいずれか?人数は1名/2～5名/6～9名/10名以上のどれに当てはまるか?)および「**A7.ビジネス拠点の状況**」(オフィス、営業所、工場などの数は1ヶ所/2～5ヶ所/6ヶ所以上のいずれか?ITインフラ管理は個別/統一管理のどちらか?)といった属性についても尋ねており、A1～A7を軸として以降に述べる全ての設問を集計したデータが含まれる。

以下の3つのグラフは1300社の有効サンプルの「従業員数」「業種」「所在地」分布を表したものである。『従業員数1000人以上の大企業が中心で、中小企業のサンプルはわずかしかない』などといったサンプル件数不足や『IT関連サービス業が大半を占めてしまっており、純粋な意味でのユーザ企業が少ない』といったサンプルの偏りが確認できる。

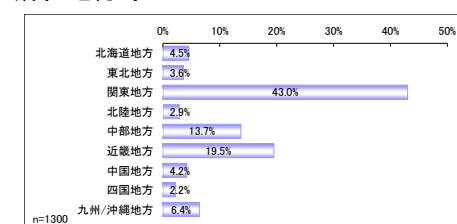
### 従業員数分布



### 業種分布



### 所在地分布



**価格:** ¥225,000円(税別)

**発刊日:** 2025年4月21日

**お申込み方法:** 弊社ホームページから、または [inform@nokresearch.co.jp](mailto:inform@nokresearch.co.jp) 宛にご連絡ください

## 本調査レポートの背景と用語の定義

本調査レポートにおけるRPA(Robotic Process Automation)ツールとは、ヒトによる手作業を自動化するアプリケーションを指す。また、ノーコード/ローコード開発ツールとは、プログラミングが全く不要(ノーコード)、もしくは簡易なプログラミング(ローコード)によって業務システムを作成できる開発環境を指す。字数が長くなることを避けるため、説明文、グラフ、数表では「ノーコード/ローコード開発(No-Code Low-Code Development)」をNLDと略記し、ノーコード/ローコード開発ツールを「NLDツール」と記載する場合がある。また、RPAツールとNLDツールを合わせて、適宜「RPA/NLDツール」と記載する。

RPAやノーコード/ローコード開発ツール(RPA/NLDツール)は中堅・中小市場においても業務の自動化や業務システムの構築における有効な手段として引き続き注目を集めている。しかし、一時期のブームとも言える状況は収束しつつあり、RPA/NLDツールの市場を更に拡大するためにはユーザ企業における同ツールの活用実態を踏まえた提案/訴求が不可欠となっている。

そこで、本調査レポートでは、ユーザ企業におけるRPA/NLDツールに対する認識、同ツールが適用される場面や用途、課題/ニーズ、同ツールの導入済み/導入予定シェアおよび支出額といった多角的な視点から調査/分析を行っている。さらに、生成AIの台頭が同ツールにどのように影響するのか?も加味した上で、RPA/NLDツールを開発/販売するIT企業に向けた提言を述べている。

## 分析サマリの章構成

本調査レポートは調査結果の要点と提言を記載した「分析サマリ」(PDF形式)と多数の集計データ(Microsoft Excel形式)で構成されている。集計データには3ページ以降に列挙した各設問を様々な観点で集計した結果が収録されている。それらの詳細は10~13ページの「本調査レポートの集計データ」で述べる。

一方、分析サマリの章立ては「RPA」および「ノーコード/ローコード開発」の2つのテーマに沿った形で以下のように2部構成となっている。

### 第1部: RPA

#### 1-1. RPAツールの活用状況

「導入済み&拡大」「導入済み&維持」「導入済み&縮小」「導入あり&廃止」「導入予定」「導入無&予定無」「判断不可」といった詳細な選択肢を設けて、RPAツールの活用状況を2023年と2024年で比べた集計/分析を行っている。

#### 1-2. RPAツールに対するユーザ企業の認識

そもそもユーザ企業はRPAツールをどのように認識しているのか(Excelのマクロ機能などと区別できているのか?など)を確認している。

#### 1-3. RPAツールを適用する場面や用途

Webサイトや紙面の転記/照合などの基本的な自動化から、資料/レポートの作成やワークフローの自動分岐などの高度な自動化まで、計14項目の選択肢を列挙して、RPAツール活用を拡大するためにはどのような場面/用途の訴求が有効か?を分析/提言している。

#### 1-4. RPAツール活用における課題やニーズ

RPAツール活用における課題(計21項目)およびRPAツール活用における取り組みや方針(計20項目)を集計/分析している。

#### 1-5. RPAツールの社数シェアと導入費用

計38項目に渡る具体的な製品/サービス名を列挙した上で導入済み/導入予定のRPAツール社数シェアを集計/分析、さらにRPAツールの導入費用の傾向についても明らかにしている。

### 第2部: ノーコード/ローコード開発ツール(NLDツール)

#### 2-1. NLDツールの活用状況

「導入済み&拡大」「導入済み&維持」「導入済み&縮小」「導入あり&廃止」「導入予定」「導入無&予定無」「判断不可」といった詳細な選択肢を設けて、NLDツールの活用状況を2023年と2024年で比べた集計/分析を行っている。

#### 2-2. NLDツールに対するユーザ企業の認識

そもそもユーザ企業はNLDツールをどのように認識しているのか(HP作成やモバイルサイトに特化したものもNLDツールに含めているのか?など)を確認している。

#### 2-3. NLDツールを適用する場面や用途

新規の業務システム開発、レガシーマイグレーション、クラウドサービス間の連携、Excel代替など、計10項目の選択肢を列挙して、NLDツール活用を拡大するためにはどのような場面/用途の訴求が有効か?を分析/提言している。

#### 2-4. NLDツール活用における課題やニーズ

NLDツール活用における課題(計20項目)およびNLDツール活用における取り組みや方針(計20項目)を集計/分析している。

#### 2-5. NLDツールの社数シェアと導入費用

6カテゴリ計43項目に渡る具体的な製品/サービス名を列挙して導入済み/導入予定のNLDツール社数シェアを集計/分析、さらにNLDツールの導入費用の傾向についても明らかにしている。

次頁では本調査レポートの設問構成について記載している。

## 本調査レポートの設問項目(1/7)

本調査レポートの設問は大きく分けてF1～F8の計8項目で構成されている。さらに、幾つかの設問はF2-1、F2-2のように枝番に分かれており、「F\*-1」はRPAツールに限定した選択肢、「F\*-2」はNLDツールに限定した選択肢の設問となっている。F8-1とF8-2を除く設問はいずれも与えられた選択肢から回答を選ぶ「選択肢設問」となっており、設問文の末尾に(複数回答可)と記載された設問は複数の選択肢を選ぶことが可能な設問、そうでない設問は1つの選択肢のみを選ぶ単一回答設問である。F8-1とF8-2はRPA/NLDツールの導入費用を数値で記入する「数値記入設問」となっている。

### F1.RPA/NLDツールの活用に該当するケース(複数回答可)

中堅・中小企業がRPA/NLDツールをどのように理解しているか(他の既存ツールと混同していないか?)を把握するために、RPA/NLDツールの活用に該当すると考えられるケースはどれか?を尋ねた設問である。例えば、もしも「Excelのマクロ記録機能を用いて処理を自動化する」の回答割合が高かったとすると、RPAツールとMicrosoft Excelのマクロ機能を混同しているユーザ企業が多いということになる。選択肢は以下の通り。

#### <<RPAツールの活用>>

- ・PCの操作内容を記録して、それを再現する形で自動化する
- ・PCの操作手順を定義して、それに沿って自動的に実行する
- ・既存の業務システムをカスタマイズして処理を自動化する
- ・ヒトによる手作業を代替するシステムを新規に開発する
- ・Excelのマクロ記録機能を用いて処理を自動化する

#### <<その他>>

- ・その他:
- ・判断できない(排他)

#### <<NLDツールの活用>>

- ・ツール上で画面や処理を定義して、ソースコードを出力する
- ・ツール上で画面や処理を定義して、クラウド上などで動かす
- ・専用ツールでECサイトやホームページを手軽に作成する
- ・専用ツールでモバイル向けサービスを素早く構築する
- ・Excelの関数やマクロを用いて独自システムを構築する

設問F1を尋ねた後、以降の設問に進む前にあらためて本調査レポートにおけるRPA/NLDツールの定義を以下のような内容で記載している。

#### RPAツールとは:

・PCの操作内容を記録して、それを再現する形で自動化する  
・PCの操作手順を定義して、それに沿って自動的に実行する  
といった方法でヒトによる手作業を自動化するアプリケーションを指す。既存の業務システムをカスタマイズしたり、新規に業務システムを開発して実現された自動化はRPAツールの活用には含まない。

#### NLDツール(ノーコード/ローコード開発ツール)とは:

ツール上で画面や処理を定義して、ソースコードを出力したり、クラウドなどで動作する業務システムを生成できる開発基盤を指す。  
ただし、ECサイトやホームページなどの特定用途に限定したものや、モバイルなどの特定のシステム形態に特化したものは除外する。

### F2-1.RPAツールの活用状況

### F2-2.NLDツールの活用状況

RPAツールとNLDツールのそれぞれの活用状況を以下の選択肢で尋ねた設問である。

- ・導入済み&拡大 既に導入済みであり、今後は活用範囲を更に拡大する場合(※1)
- ・導入済み&維持 既に導入済みであり、今後も現在の活用範囲を維持する場合(※2)
- ・導入済み&縮小 既に導入済みであり、今後は現在の活用範囲を縮小する場合(※3)
- ・導入あり&廃止 過去に導入していたが、現在は活用していない場合(※4)
- ・導入予定 現在は導入していないが、今後導入する予定の場合(※5)
- ・導入無&予定無 現在は導入しておらず、導入する予定もない場合
- ・判断不可 現在は導入しておらず、今後は判断できない場合

RPA/NLDツールの導入有無によって課題やニーズがどう異なるか?把握するために、本設問は他の設問を集計する際の軸として用いられる。その際には※1～※3を「導入済み」に集約し、※5の「導入予定」および※4の「導入あり&廃止」と共に3つの選択肢にまとめた本設問の派生設問「F2-1(要約)」および「F2-2(要約)」が用いられることもある。

### F3.RPA/NLDツール活用における課題(複数回答可)

RPA/NLDツールを活用する際にユーザ企業が直面する課題は何か?を尋ねた設問である。導入済みや過去に導入経験がある場合は実際に直面した課題、導入予定の場合は想定される課題を選ぶ。導入予定がない、または導入判断がつかない場合にはRPA/NLDツールを活用したと仮定した際に想定される課題を選ぶ。選択肢は以下の通り。

#### <<RPAツールに固有の項目>>

- ・自動化できる業務内容がごく一部に限られる
- ・自動化できる業務内容がどれか判断できない
- ・ヒトによる手作業が残るため、導入効果が低い
- ・自動処理中にヒトの判断を挟むことができない

#### <<NLDツールに固有の項目>>

- ・コーディングが必要となる場面が意外と多い
- ・実現できる画面仕様や処理内容に限られる
- ・業務上の仕様やルールが曖昧になりやすい

#### <<共通:ツール自体に関連する課題>>

- ・ツール固有のノウハウやスキルが必要になる
- ・従来通りに業務システムを構築した方が確実
- ・他システムとの連携が困難または煩雑である
- ・既存の開発ツールや運用/保守と合致しない
- ・処理性能やセキュリティ対策を強化できない
- ・ツール自体が将来的になくなる恐れがある

#### <<共通:ツールの導入/運用に関連する課題>>

- ・経営層がツールを用いた省力化に反対している
- ・ツール活用にはIT企業の支援が不可欠である
- ・ツールの機能が豊富であるため使いこなせない
- ・ツールの機能が不足していて要件を満たせない
- ・部門単位での勝手なツール活用が乱立する
- ・生成AIと比べると柔軟性が低く、扱いづらい

#### <<共通:費用やシステム形態に関連する課題>>

- ・有償コンサルティングを受けないと導入できない
- ・運用形態(クラウド/オンプレミス)が限定される
- ・RPAツールとNLDツールの使い分けが難しい
- ・ツールのライセンス費用が高価である
- ・ツールの導入/運用に手間がかかる

#### <<共通:その他>>

- ・その他:

### F4.RPA/NLDツール活用における取り組みや方針(複数回答可)

RPA/NLDツールを活用する際の取り組み(テンプレートを利用するなど)や方針(アジャイル開発を採用するなど)について尋ねた設問である。導入済みや過去に導入経験がある場合は実施した取り組みや実践した方針、導入予定の場合は想定している取り組みや方針を選ぶ。また、導入予定がない、または導入判断がつかない場合にはRPA/NLDツールを活用したと仮定した際に想定される取り組みや方針を選ぶ。選択肢は以下の通り。

#### <<RPAツールに固有の項目>>

- ・業務の自動化を例示したテンプレートを利用する
- ・複数業務が連携した自動化を提案してもらう
- ・PC操作を元に自動化すべき業務を診断する
- ・自動化の適用範囲をペーパーレス化に絞る

#### <<NLDツールに固有の項目>>

- ・汎用のNLDツールで様々な用途をカバーする
- ・用途別の専用開発ツールを適材適所で選ぶ
- ・要件に合ったSaaSがあればそれを優先する
- ・内製による開発範囲はExcel代替に絞る

#### <<共通:ツールの導入/運用に関連する取り組みや方針>>

- ・まずは既存システム自体の改善を検討する
- ・既存システムをRPA/NLDツールで代替する
- ・RPA/NLDツールの代わりに生成AIを活用する
- ・IT企業に頼らず、自力でツールを活用する
- ・IT企業の支援を受けてツールを活用する
- ・反復的なアジャイル開発手法を採用する

#### <<共通:ツールの活用目的に関連する取り組みや方針>>

- ・デジタル化する業務を拡大するために活用する
- ・システム開発を短期化する手段として活用する
- ・システム改変を容易にする手段として活用する
- ・性能やセキュリティの確保手段として活用する
- ・IT担当/部門の負担軽減のために活用する
- ・IT支出を削減する手段として活用する

#### <<共通:費用やシステム形態に関連する取り組みや方針>>

- ・有償でも導入支援コンサルティングを利用する
- ・機能が限られても、無償/安価なツールを選ぶ
- ・処理量やデータ量に基づく従量性課金を選ぶ
- ・RPA/NLDツールの成果物はクラウドで運用する

#### <<共通:その他>>

- ・その他:

### F5-1.RPAツールを適用する場面や用途(複数回答可)

業務におけるどのような場面や用途に対してRPAツールを適用するか?を尋ねた設問である。導入済みや過去に導入経験がある場合は実際に適用した場面や用途、導入予定の場合は想定している場面や用途を選ぶ。導入予定がない、もしくは導入判断がつかない場合にはRPAツールを活用したと仮定した際に想定される場面や用途を選ぶ。選択肢は以下の通り。

#### <<データの転記や照合に関する項目>>

- ・書式が定まった紙面の転記/照合 例) マークシート方式で記入する申込書をシステムに転記する作業を自動化する
- ・非定型である紙面の転記/照合 例) 名刺のように書式が一定でない紙面のデータを転記する作業を自動化する
- ・手書きを含む紙面の転記/照合 例) 手書きの自由記述を含むアンケートをシステムに転記する作業を自動化する
- ・Webサイトの転記/照合 例) 競合他社の価格情報を検索して一覧に整理する作業を自動化する
- ・メール文面の転記/照合 例) メールで送られた注文を販売管理システムに入力する作業を自動化する

#### <<データの配置や配信に関する項目>>

- ・ファイルを定期的に配置する 例) 毎日所定の時刻に売上速報をアップロードする作業を自動化する
- ・メールを定期的に配信する 例) 定例会議の前に事前資料をメールで送信する作業を自動化する

#### <<データの作成や加工に関する項目>>

- ・資料やレポートの作成 例) 会計システムのデータを経営層向けにグラフ化する作業を自動化する
- ・データの集約と修正 例) 店舗や拠点の売上データを統一された書式にまとめる作業を自動化する
- ・データや書式の変換 例) システムAのデータをシステムBに読み込むための変換作業を自動化する

#### <<高度な判断を伴う処理に関する項目>>

- ・Q&Aサイトの自動応答 例) 過去の履歴などを元にQ&Aサイトに書かれた質問に対して自動的に応答する
- ・メールの自動返信 例) 過去の履歴などを元にメールで送られた問い合わせに対して自動的に応答する
- ・ワークフローの分岐 例) 過去の履歴などを元にワークフローにおける条件分岐を自動的に判断する
- ・データ分析と予測 例) 顧客情報や履歴データを元に優良顧客や要注意顧客(支払遅延など)を推定する

#### <<その他>>

- ・その他:

### F5-2.NLDツールを適用する場面や用途(複数回答可)

業務におけるどのような場面や用途に対してNLDツールを適用するか?を尋ねた設問である。導入済みや過去に導入経験がある場合は実際に適用した場面や用途、導入予定の場合は想定している場面や用途を選ぶ。導入予定がない、もしくは導入判断がつかない場合にはNLDツールを活用したと仮定した際に想定される場面や用途を選ぶ。選択肢は以下の通り。

- ・新規の業務システム開発 例) OutSystemsで自社向けの独自CRMを開発する
- ・既存システムの機能追加 例) 既存システムにLightning Platformでスマートフォン向け画面を追加する
- ・既存システムの再構築 例) Lotus Notes/Dominoの独自データベースをHCL Domino Leapで作り直す
- ・レガシーマイグレーション 例) COBOLで構築されたシステムと同じ仕様のものをGeneXusで再構築する
- ・クラウドサービス間の連携 例) Power AutomateでDropboxとSlackを連携させる
- ・オンプレミス/クラウド連携 例) Boomiで社内システムとクラウドを連携する
- ・オンプレミス同士の連携 例) ASTERIA Warpで異なるデータベースを連携する
- ・簡易な業務ツールの作成 例) 部署内の工程管理ツールをFile Makerで作成する
- ・Excel代替のシステム開発 例) Excelのマクロで作成したシステムをkintoneに移行する
- ・ヒトによる手作業の自動化 例) AppSuiteで週次の売上計算処理を自動化する
- ・その他:

## 本調査レポートの設問項目(4/7)

### F6-1A.導入済み/導入予定のRPAツール(複数回答可)

本設問は設問F2-1「RPAツールの活用状況」において、「導入済み&拡大」(※1)、「導入済み&維持」(※2)、「導入済み&縮小」(※3)、「導入あり&廃止」(※4)、「導入予定」(※5)のいずれかを選んだ場合のみ回答対象となる。※1～※4を選んだ場合は実際に導入したRPAツール、※5の場合は導入を予定しているRPAツールを全て選ぶ。選択肢は以下の通り。選択肢に掲載される製品/サービスは過去の調査結果や最新の市場状況を踏まえて選定される。自由回答で多く挙げられたものは選択肢として新たに取り上げ、逆に一定期間以上シェア数値がないものは割愛するという方針で年毎に調整を行っている。(国内ベンダに事業譲渡された外資系ベンダ製品は外資系のグループに含めている)

#### <<国内ベンダ>>

・WinActor	NTTアドバンステクノロジー	・batton	batton
・BizRobo!	オープン(RPAテクノロジーズ)	・AUTORO	オートロ(チュートリアル)
・Auto名人シリーズ	ユーザックシステム	(Robotic Crowd)	
・Synchroid	ソフトバンク、オープングループ	・BizteX cobit	BizteX
	(RPAホールディングス)	・アシロボ	ドヴァ(ディヴオートソリューション)
・OCEVISTAS	大崎コンピュータエンジニアリング、	・RoboTANGO	スターティアレイズ
	オープン(RPAテクノロジーズ)	・JobAuto	シジャム・ビーティービー
・パトロールロボコン/ ロボシュタイン	コムスクエア	・Ez Robot	Ezテクノロジーズ(RPAソリューションズ)
・ipaSロボ	デリバリーコンサルティング	・クラウドBOT	C-RISE
・NEC Software Robot Solution(BizRobo!は除く)	NEC	・EzAvater	テリロジーサービスウェア
・GENEST/EntreQue/Axelute	富士通	・コボットPlatform	ディップ
・RKシリーズ	キーエンス	・zigga flow	ジグザ
・NaU DSP	なうデータ研究所	・マクロマン	コクー
・Robo-Pat	FCE	・ロボオペレータ	PKSHA Associates
		・オークファンロボ	オークファン
		・Owlgarden RPA	エクス

#### <<外資系ベンダ>>

・UiPath	UiPath	・WorkFusion(RPA Express を含む)	WorkFusion
・Blue Prism	SS&C Blue Prism	・Tungsten RPA	オープン(RPAテクノロジーズ)(Tungsten Automation Japan、Kofax Japan)(事業譲渡)
・NICE APAシリーズ	NICE	(Kofax RPA)	
・Power Automate Desktop	日本マイクロソフト	・Verint RPA	ベリントシステムズジャパン
・Automation 360(Anywhere Enterprise)	オートメーション・ エニウェア	・AutoMate	Fortra(HelpSystems)
・Pega Robotic Process Automation	Pegasystems	・OpenRPA	OpenIAP

#### <<その他>>

- ・その他の製品/サービス:
- ・Webサービス連携ツールの一機能として利用
- ・ERP/基幹系システムの一機能として利用
- ・コラボレーションの一機能として利用
- ・ワークフロー・ビジネスプロセス管理の一機能として利用
- ・ペーパーレス化のソリューションの一部として利用
- ・テレワークのソリューションの一部として利用
- ・独自開発システム

## 本調査レポートの設問項目(5/7)

### F6-1AT.導入済み/導入予定のRPAツール(複数回答可)

設問F6-1A「導入済み/導入予定のRPAツール」の選択肢のうち、回答割合が比較的低いものは「その他の製品/サービス:」に集約し、全体の選択肢数が概ね25件以内となるように要約した派生設問である。(ただし、要約後も<<その他>>に属する「その他の製品/サービス:」以外の選択肢(「Webサービス連携ツールの一機能として利用」など)は含まれる)

### F6-1AS.導入済み/導入予定のRPAツール(複数回答可)

設問F6-1A「導入済み/導入予定のRPAツール」の結果を<<国内ベンダ>>、<<外資系ベンダ>>、<<その他>>の3グループの単位で集約した派生設問である。つまり、選択肢は<<国内ベンダ>>、<<外資系ベンダ>>、<<その他>>の3つとなる。

### F6-1B.最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール

設問F6-1A「導入済み/導入予定のRPAツール」で選んだ選択肢のうち、最も主要なもの(最も利用頻度が高い、もしくは最も重要度が高い)を1つ選ぶ設問である。選択肢には設問F6-1Aで選択したものが表示される。

### F6-1BT.最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール

設問F6-1B「最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール」の選択肢のうち、回答割合が比較的低いものは「その他の製品/サービス:」に集約して、全体の選択肢数が概ね25件以内となるように要約した派生設問である。(要約後も<<その他>>に属する「その他の製品/サービス:」以外の選択肢(「Webサービス連携ツールの一機能として利用」など)は含まれる)

### F6-1BS.最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール

設問F6-1B「最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール」の結果を<<国内ベンダ>>、<<外資系ベンダ>>、<<その他>>の3グループの単位で集約した派生設問である。つまり、選択肢は<<国内ベンダ>>、<<外資系ベンダ>>、<<その他>>の3つとなる。

### F7-1.最も主要なRPAツールの導入元

ここでの「導入元」とは設問F6-1Bで回答した最も主要なRPAツールをどのような販社/SIerから導入したか?を指す。選択肢は以下の通り。

- ・最も主要な委託先/購入先 IT商材全般を最も多く導入している委託先/購入先(プライムの販社/SIer)からの導入
- ・主要ではない委託先/購入先 プライムではない販社/SIerからの導入
- ・開発元ベンダからの直接購入 開発元ベンダからの導入(直販の場合)

### F8-1.最も主要なRPAツールの導入費用(万円)

設問F6-1Bで回答した最も主要なRPAツールの導入費用を数値で記入する設問である。本設問は設問F2-1「RPAツールの活用状況」において、「導入済み&拡大」(※1)、「導入済み&維持」(※2)、「導入済み&縮小」(※3)、「導入あり&廃止」(※4)、「導入予定」(※5)のいずれかを選んだ場合のみ回答対象となり、※1~※4を選んだ場合は実際に要した費用、※5の場合は想定される費用を回答する。ハードウェアとOSに関する初期費用(購入費用、初期設定費用など)は除外し、RPAツールの形態に応じて以下の要素を含めた金額を記入する。

パッケージの場合: パッケージ購入費用、ミドルウェア購入費用、パッケージの初期設定費用、カスタマイズ費用(カスタマイズしている場合)の総額

SaaSの場合: サービス初期費用、サービスの初期設定費用、カスタマイズ費用(カスタマイズしている場合)の総額

独自開発の場合: 独自開発費用、ミドルウェア購入費用、独自開発システムの初期設定費用の総額

# 本調査レポートの設問項目(6/7)

## F6-2A.導入済み/導入予定のNLDツール(複数回答可)

本設問は設問F2-2「NLDツールの活用状況」において、「導入済み&拡大」(※1)、「導入済み&維持」(※2)、「導入済み&縮小」(※3)、「導入あり&廃止」(※4)、「導入予定」(※5)のいずれかを選んだ場合のみ回答対象となる。※1～※4を選んだ場合は実際に導入したNLDツール、※5の場合は導入を予定しているNLDツールを全て選ぶ。(選択肢の選定方法はRPAと同様)

### <<超高速開発ツール>>

データ構図や画面レイアウトなどをツール上で設計/指定することで、プログラムを自動生成するもの

- |   |                     |
|---|---------------------|
| •GeneXus  | ジェネクス・ジャパン          |
| •OutSystems   | OutSystems          |
| •Magic xpa(dbMagic)                                   | マジックソフトウェア・ジャパン     |
| •Web Performer  | キャノンITソリューションズ      |
| •AppSQUARE  | 日立ソリューションズ東日本       |
| •楽々Framework3   | 住友電工情報システム          |
| •Sapiens eMerge                                       | サピエンステクノロジー・ジャパン    |
| •intra-mart Accel Platform (Accel-Mart Quick/Plusを含む) | NTTデータ イントラマート      |
| •HCL Domino Leap (HCL Domino Volt)                    | HCL Software        |
| •AWS Amplify  | Amazon Web Services |
| •Adalo  | Adalo               |
| •Bubble   | Bubble              |
| •Click  | NoCode Japan        |
| •Wagby  | ジャスミンソフト            |
| •プリザンター   | インプリム               |

### <<PaaSとして提供されているもの>> (PaaSを出自としているもの)

クラウド上に開発環境と実行環境が配備されており、月額/年額のサービスとして提供されているもの

- |                                |               |
|--------------------------------|---------------|
| •Lightning Platform(Force.com) | セールスフォース・ジャパン |
| •kintone                       | サイボウズ         |
| •Power Apps                    | 日本マイクロソフト     |
| •AppSheet                      | グーグル          |

### <<カジュアルデータベース>> (超高速開発ツールと比べて、やや簡易なもの)

ExcelやAccessのようにデータ構造を定義し、部品を組み合わせて操作/表示の画面を作成するもの

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| •Claris FileMaker   | Claris(クラリス)  |
| •JUST.DB / UnitBase | ジャストシステム      |
| •Zoho Creator       | ゾーホージャパン      |
| •コンテキサー             | アプストウェブ       |
| •Forguncy           | メシウス(グレープシティ) |
| •CELF               | SCSK          |
| •RapidTable         | Rapid Table   |

### <<グループウェアと関連が深いもの>> (グループウェアから派生した出自をもつもの)

グループウェアベンダによって提供され、独自のアプリケーションを作成できる仕組みを備えたもの

- |                      |          |
|----------------------|----------|
| •AppSuite            | ネオジャパン   |
| •SmartDB             | ドリーム・アーツ |
| •POWER EGG Webデータベース | ディサークル   |

### <<CRMや基幹系システムと関連が深いもの>> (CRMや基幹系システムから派生した出自をもつもの)

CRMの一環として導入されることが多く、独自のアプリケーションを作成できる仕組みを備えたもの

- |                            |                |
|----------------------------|----------------|
| •SMILE V Custom AP Builder | OSK(大塚商会)      |
| •SMILE V CRM Quick Creator | OSK(大塚商会)      |
| •SPIRAL                    | スパイラル(パイブドビッツ) |

### <<iPaaS/データ連携ツール>>

複数のシステムやクラウドサービス間を連携することに重点を置いたもの

- |   |                         |
|---|-------------------------|
| •DataSpider Cloud                       | セゾンテクノロジー(セゾン情報システムズ)   |
| •ASTERIA Warp                           | アステリア                   |
| •Anypoint Platform                      | MuleSoft(セールスフォース・ジャパン) |
| •Workato                                | Workato                 |
| •Informatica Intelligent Cloud Services | インフォマティカ                |
| •Boomi                                  | Boomi                   |
| •Power Automate                         | 日本マイクロソフト               |
| •IFTTT                                  | IFTTT                   |
| •Zapier                                 | Zapier                  |
| •Anyflow                                | Anyflow                 |
| •Claris Connect                         | Claris(クラリス)            |

### <<その他>>

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| •ECサイト構築に特化したツール    | •ホームページ作成に特化したツール |
| •モバイル向けシステムに特化したツール | •その他の製品/サービス:     |



## 本調査レポートの設問項目(7/7)

### F6-2AT.導入済み/導入予定のNLDツール(複数回答可)

設問F6-2A「導入済み/導入予定のNLDツール」の選択肢のうち、回答割合が比較的低いものは「その他の製品/サービス:」に集約し、全体の選択肢数が概ね25件以内となるように要約した派生設問である。(ただし、要約後も<<その他>>に属する「その他の製品/サービス:」以外の選択肢(「ECサイト構築に特化したツール」など)は含まれる)

### F6-2AS.導入済み/導入予定のNLDツール(複数回答可)

設問F6-2A「導入済み/導入予定のRPAツール」の結果を<<超高速開発ツール>>、<<PaaSとして提供されているもの>>、<<カジュアルデータベース>>、<<グループウェアと関連が深いもの>>、<<CRMや基幹系システムと関連が深いもの>>、<<iPaaS/データ連携ツール>>、<<その他>>の7つの選択肢グループにまとめた派生設問である。つまり、選択肢は上記において<<\*\*\*>>で列挙した7つとなる。

### F6-2B.最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール

設問F6-2A「導入済み/導入予定のNLDツール」で選んだ選択肢のうち、最も主要なもの(最も利用頻度が高い、もしくは最も重要度が高い)を1つ選ぶ設問である。選択肢には設問F6-2Aで選択したものが表示される。

### F6-2BT.最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール

設問F6-2B「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」の選択肢のうち、回答割合が比較的低いものは「その他の製品/サービス:」に集約して、全体の選択肢数が概ね25件以内となるように要約した派生設問である。(要約後にも<<その他>>に属する「その他の製品/サービス:」以外の選択肢(「ECサイト構築に特化したツール」など)は含まれる)

### F6-2BS.最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール

設問F6-2B「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」の結果を<<超高速開発ツール>>、<<PaaSとして提供されているもの>>、<<カジュアルデータベース>>、<<グループウェアと関連が深いもの>>、<<CRMや基幹系システムと関連が深いもの>>、<<iPaaS/データ連携ツール>>、<<その他>>の7つの選択肢グループにまとめた派生設問である。つまり、選択肢は上記において<<\*\*\*>>で列挙した7つとなる。

### F7-2.最も主要なNLDツールの導入元

ここでの「導入元」とは設問F6-2Bで回答した最も主要なNLDツールをどのような販社/Sierから導入したか?を指す。選択肢は以下の通り。

- ・最も主要な委託先/購入先 IT商材全般を最も多く導入している委託先/購入先(プライムの販社/Sier)からの導入
- ・主要ではない委託先/購入先 プライムではない販社/Sierからの導入
- ・開発元ベンダからの直接購入 開発元ベンダからの導入(直販の場合)

### F8-2.最も主要なNLDツールの導入費用(万円)

設問F6-2Bで回答した最も主要なNLDツールの導入費用を数値で記入する設問である。本設問は設問F2-2「NLDツールの活用状況」において、「導入済み&拡大」(※1)、「導入済み&維持」(※2)、「導入済み&縮小」(※3)、「導入あり&廃止」(※4)、「導入予定」(※5)のいずれかを選んだ場合のみ回答対象となり、※1～※4を選んだ場合は実際に要した費用、※5の場合は想定される費用を回答する。ハードウェアとOSに関する初期費用(購入費用、初期設定費用など)は除外し、NLDツールの形態に応じて以下の要素を含めた金額を記入する。

パッケージの場合: パッケージ購入費用、ミドルウェア購入費用、パッケージの初期設定費用、カスタマイズ費用(カスタマイズしている場合)の総額

SaaSの場合: サービス初期費用、サービスの初期設定費用、カスタマイズ費用(カスタマイズしている場合)の総額

独自開発の場合: 独自開発費用、ミドルウェア購入費用、独自開発システムの初期設定費用の総額

## 本調査レポートの集計データ(1/4)

本調査レポートで用いられている用語の説明やファイルの命名規則は以下の通りである。

### 【用語の説明】

「表頭」 実際の集計対象となる設問を指す。集計表では列表記に相当し、グラフでは凡例に相当する。

「表側」 表頭となるデータを区切って集計する際の区分に相当する設問を指す。集計表においては列表記に相当し、グラフにおいてはそれぞれの帯に相当する。

### 【ファイルの命名規則】

本調査レポートの集計データはMicrosoft Excel形式となっており、以下の命名規則に沿って作成されている。

#### 表側を伴わない集計データ：単純集計データ

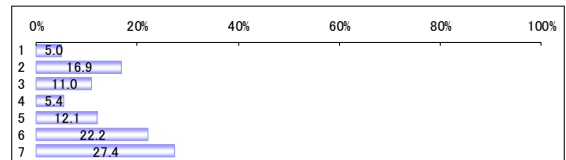
命名規則： **【表頭名】単純集計.xlsx**

表側を設定しない集計結果は「単純集計データ」と呼ばれ、設問の回答結果を棒グラフでプロットする形式となる。ファイル名は集計対象(表頭)となる設問名の後に「単純集計」というキーワードを付加された書式となる。例えば、本調査レポートの設問には全てFの接頭辞が付加されており、全設問の単純集計データを収録したファイル名は「【F系列】単純集計.xlsx」となる。

#### 単純集計データの例

F2-2.NLDツールの活用状況

	n	%
全体	1300	100.0
1 導入済み&拡大	65	5.0
2 導入済み&維持	220	16.9
3 導入済み&縮小	143	11.0
4 導入あり&廃止	70	5.4
5 導入予定	157	12.1
6 導入無&予定無	289	22.2
7 判断不可	356	27.4



#### 表側を伴う集計データ：主要分析軸集計 および 質問間クロス集計データ

命名規則： **【表頭名】(【表側名】表側).xlsx**

表側が設置された集計結果は「主要分析軸集計データ」または「質問間クロス集計データ」と呼ばれる。

「主要分析軸集計データ」とは、A1～A7までのサンプル属性区分を表側として集計したデータを指す。例えば、本調査レポートにおける数値回答設問を除いた全ての設問(与えられた選択肢から選ぶ形式の設問)を表頭とし、「A1.年商」を表側として集計した「主要分析軸集計データ」のファイル名は「【F系列】(【A1】表側).xlsx」となる。

一方で、「質問間クロス集計データ」とは、サンプル属性区分以外の何らかの設問を表側として集計したデータを指す。ファイル名は集計対象(表頭)である設問名に表側となっている設問名が続き、「表側」というキーワードが付加された書式となる。例えば、本調査レポートにおける数値回答設問を除く全ての設問を表頭として、設問F2-2「NLDツールの活用状況」を表側として集計した「質問間クロス集計データ」のファイル名は「【F系列】(【F2-2】表側).xlsx」となる。

表側を伴う集計データは1設問につき1シートの形式となっており、表頭となっている設問名が各シートのタブ名に記載されている。ただし、選択肢の数が多い場合は複数シートにデータが分割される。その際はタブ名に[設問名-1]、[設問名-2]といった枝番が付加され、シート内のグラフタイトルには「\*\*(1/2)」、「\*\*(2/2)」といったように分割されたシートの一部であることを示す接尾辞が付加される。

次頁へ続く

# 本調査レポートの集計データ(2/4)

前頁からの続き

表側を伴う集計データの各シートは以下の4つの要素から構成される。

## A [自動生成コメント]

集計データの概要が端的なコメントとして記載されている。ただし、このコメントは自動生成された参考コメントとしての位置付けであるため、設問選択肢の詳しい意味合いなどは加味されていない点に注意する必要がある。

## B [設問結果の単純集計結果グラフ]

選択肢の数に応じて縦棒グラフまたは横帯グラフのいずれかによって表側が設定されていない状態の集計結果を端的に示している。

## C [表側を伴う設問結果の数表]

表側を設定した状態での集計結果を数表として表示している。数表内には選択肢毎の回答件数と回答割合(パーセント)が記載されている。

## D [表側を伴う設問結果のグラフ]

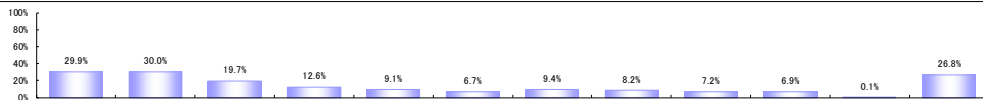
表側を設定した状態での集計結果を積み上げ横棒グラフとして表示している。可視性を考慮して、5%未満の数値についてはグラフ中の数字表記を非表示としている。表頭となる設問が単一回答設問である場合は目盛に値の付いた横軸が表示される。複数回答設問の場合には複数の選択肢を合計した数値には重複が含まれるため、誤った数値の読み取りを避ける目的で横軸の目盛り値を非表示としている。

表側を伴う集計データの例

A

F1.RPA/NLDツールの活用に関するケース(複数回答可)  
 \*全体では、「PCの操作手順を定義して、それによって自動的に実行する」が30.0%で最も高く、次いで「PCの操作内容を記録して、それを再現する形で自動化する(29.9%)」「判断できない(26.8%)」である。  
 \*「A1.年商」では、「50億円未満」「100億円未満」で「PCの操作内容を記録して、それを再現する形で自動化する」、「100億円以上～300億円未満」で「既存の業務システムをカスタマイズして処理を自動化する」が全体と比較して高い。

B



表頭

表側

自動化方法	全体	A1.年商	5億円未満	5億円以上～10億円未満	10億円以上～20億円未満	20億円以上～50億円未満	50億円以上～100億円未満	100億円以上～300億円未満	300億円以上～500億円未満
形しPでCの助走操作を内蔵する	399	45	38	23	16	16	11	18	12
動しPにCの案を操作する	390	30	36	23	16	16	11	18	12
をカ既自の化マ業すしス	256	23	16	16	11	11	8	10	10
に替ヒ発るにすよる	164	16	16	11	11	8	10	10	10
自録E助機x化能oするe	118	16	16	11	11	8	10	10	10
コをソI定Iド集ルをてし上	87	6	6	6	6	6	6	6	6
上をツな定Iど集ルをてし上	122	14	14	15	15	15	15	15	15
軽ト専にや用成IするI	106	9	9	9	9	9	9	9	9
構向専集け用すツツ	82	7	7	7	7	7	7	7	7
テグEムロxをe構築i	94	7	7	7	7	7	7	7	7
その他	90	14	14	15	15	15	15	15	15
判断できない	1	88	44.0%	67	33.5%	53	26.5%	54	27.0%

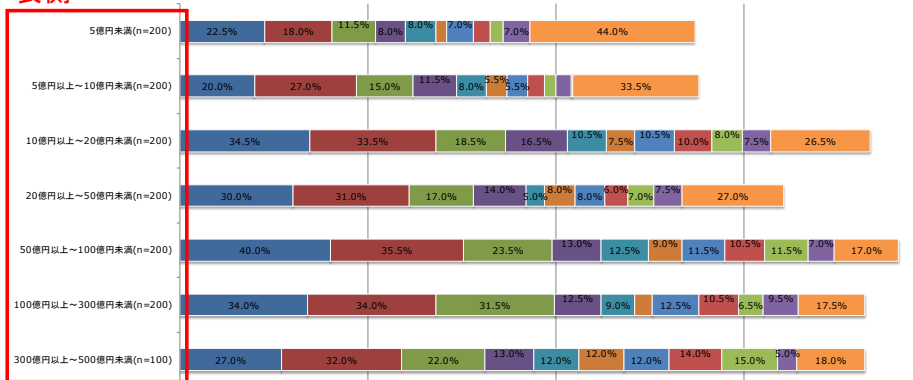
C

5億円未満	200	22.5%	18.0%	11.5%	8.0%	8.0%	7.0%	7.0%	44.0%
5億円以上～10億円未満	200	20.0%	27.0%	15.0%	11.5%	8.0%	3.5%	3.5%	33.5%
10億円以上～20億円未満	200	34.5%	33.5%	18.5%	16.5%	10.5%	7.5%	10.5%	10.0%
20億円以上～50億円未満	200	30.0%	31.0%	17.0%	14.0%	8.0%	7.0%	7.0%	27.0%
50億円以上～100億円未満	200	40.0%	35.5%	23.5%	13.0%	12.5%	9.0%	11.5%	10.5%
100億円以上～300億円未満	200	34.0%	34.0%	31.5%	12.5%	9.0%	12.5%	10.5%	6.5%
300億円以上～500億円未満	100	27.0%	32.0%	22.0%	13.0%	12.0%	12.0%	14.0%	15.0%

\*赤字はペーシがn=19以下のため参考値  
 \*は全体より10ポイント以上高いセル  
 \*は全体より10ポイント以上低いセル

表側

F1.RPA/NLDツールの活用に関するケース(複数回答可)



D

表頭

- PCの操作内容を記録して、それを再現する形で自動化する
- PCの操作手順を定義して、それによって自動的に実行する
- 既存の業務システムをカスタマイズして処理を自動化する
- ヒトによる手作業を代替するシステムを新規に開発する
- Excelのマクロ記録機能を用いて処理を自動化する
- ツール上で画面や処理を定義して、ソースコードを出力する
- ツール上で画面や処理を定義して、クラウドなどで動かす
- 専用ツールでECサイトやホームページを手軽に作成する
- 専用ツールでモバイル向けサービスを素早く構築する
- Excelの関数やマクロを用いて独自システムを構築する
- その他
- 判断できない

## 本調査レポートの集計データ(3/4)

本調査レポートに収録されている集計データは以下の通りである。

### サンプル属性データ:

サンプル属性.xlsx

調査対象企業(有効回答件数1300社)の年商や業種などの属性分布を収録したファイル

### 単純集計データ:

【F系列】単純集計.xlsx

表側を設定せずに本調査レポートの全ての設問を集計したデータ

### 主要分析軸集計データ:

【F系列】(【A1】表側).xlsx

年商(A1)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

【F系列】(【A2】表側).xlsx

職責(A2)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

【F系列】(【A3】表側).xlsx

従業員数(A3)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

【F系列】(【A4】表側).xlsx

業種(A4)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

【F系列】(【A5】表側).xlsx

所在地(A5)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

【F系列】(【A6】表側).xlsx

IT管理/運用の人員規模(A6)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

【F系列】(【A7】表側).xlsx

ビジネス拠点の状況(A7)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

【F系列数値】(【A1】表側).xlsx

年商(A1)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ

【F系列数値】(【A2】表側).xlsx

職責(A2)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ

【F系列数値】(【A3】表側).xlsx

従業員数(A3)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ

【F系列数値】(【A4】表側).xlsx

業種(A4)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ

【F系列数値】(【A5】表側).xlsx

所在地(A5)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ

【F系列数値】(【A6】表側).xlsx

IT管理/運用の人員規模(A6)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ

【F系列数値】(【A7】表側).xlsx

ビジネス拠点の状況(A7)を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)の平均値を集計したデータ

### 質問間クロス集計データ:

【F系列】(【F2-1】表側).xlsx

設問F2-1「RPAツールの活用状況」を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

【F系列】(【F2-1(要約)】表側).xlsx

設問F2-1「RPAツールの活用状況」を要約した設問を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

【F系列】(【F2-2】表側).xlsx

設問F2-2「NLDツールの活用状況」を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

【F系列】(【F2-2(要約)】表側).xlsx

設問F2-2「NLDツールの活用状況」を要約した設問を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

【F系列】(【F6-1BT】表側).xlsx

設問F6-1BT「最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール」を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

【F系列】(【F6-1BS】表側).xlsx

設問F6-1BS「最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール」を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ

## 本調査レポートの集計データ(4/4)

前頁からの続き

### 質問間クロス集計データ:

【F系列】(【F6-2BT】表側).xlsx	設問F6-2BT「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【F6-2BS】表側).xlsx	設問F6-2BS「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【F7-1】表側).xlsx	設問F7-1「最も主要なRPAツールの導入元」を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F系列】(【F7-2】表側).xlsx	設問F7-2「最も主要なNLDツールの導入元」を表側として、数値回答設問(F8-1/F8-2)を除く選択肢設問を集計したデータ
【F8-1】(【F7-1】表側).xlsx	設問F7-1「最も主要なRPAツールの導入元」を表側として、数値回答設問F8-1「最も主要なRPAツールの導入費用」の平均値を集計したデータ
【F8-2】(【F7-2】表側).xlsx	設問F7-2「最も主要なNLDツールの導入元」を表側として、数値回答設問F8-2「最も主要なNLDツールの導入費用」の平均値を集計したデータ
【F8-1】(【F6-1BS】表側).xlsx	設問F6-1BS「最も主要な導入済み/導入予定のRPAツール」を表側として、数値回答設問F8-1「最も主要なRPAツールの導入費用」の平均値を集計したデータ
【F8-2】(【F6-2BS】表側).xlsx	設問F6-2BS「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」を表側として、数値回答設問F8-2「最も主要なNLDツールの導入費用」の平均値を集計したデータ
【F8-1】(【F2-1】表側).xlsx	設問F2-1「RPAツールの活用状況」を表側として、数値回答設問F8-1「最も主要なRPAツールの導入費用」の平均値を集計したデータ
【F8-2】(【F2-2】表側).xlsx	設問F2-2「NLDツールの活用状況」を表側として、数値回答設問F8-2「最も主要なNLDツールの導入費用」の平均値を集計したデータ

### 分析サマリ掲載データ:

分析サマリ掲載データ.xlsx	本調査レポートの要点と提言を記載した「分析サマリ」(PDF形式)内に掲載されたデータ
-----------------	--

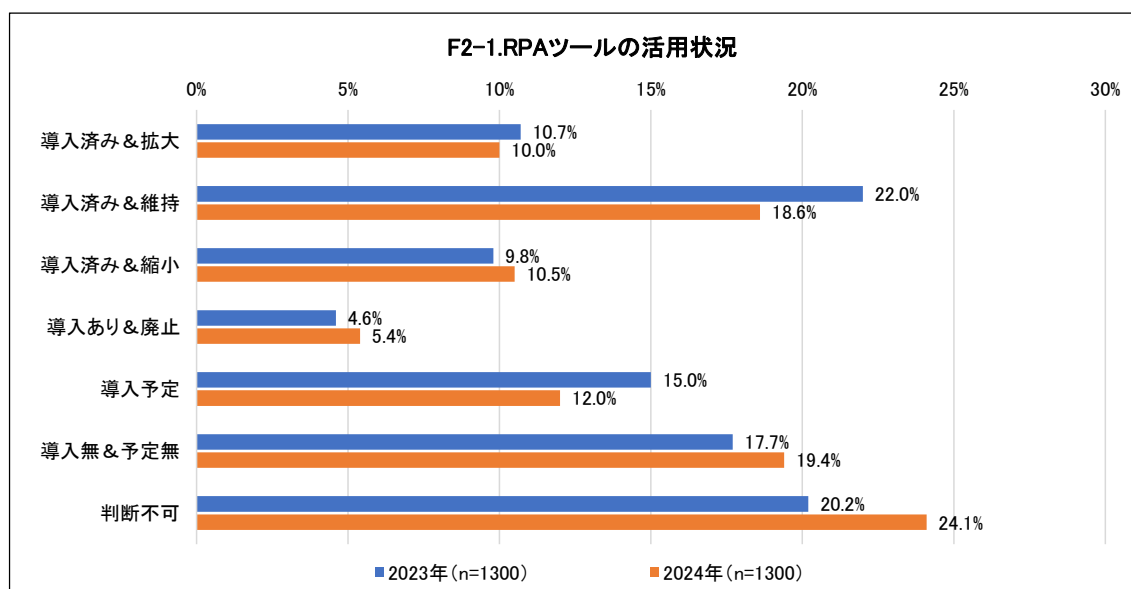
本調査レポートの重要ポイントや今後に向けた提言をまとめたものが「分析サマリ」(PDF形式)である。この分析サマリを通読することで、中堅・中小企業におけるRPA/NLDツールの活用状況を把握することができる。(分析サマリの章構成の詳細は本ドキュメントの2ページを参照) 以下の試読版では分析サマリの「第1部:RPA」の「1-1. RPAツールの活用状況」の冒頭部分を抜粋して掲載している。

## 第1部 RPA

### 1-1. RPA ツールの活用状況

本章では中堅・中小企業におけるRPAツールの活用状況について確認していく。

以下のグラフは年商500億円未満の中堅・中小企業に対してRPAツールの活用状況を尋ねた結果を2023年と2024年で比較したものだ。(集計データ¥分析サマリ掲載データ.xlsx「F2-1」シート)



同レポートの2023年版を紹介した(※)のサンプル/ダイジェストで触れているように、2023年の時点ではレイトマジョリティに向けてRPA導入を如何に進めるか?が焦点だった。

※[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023RPA\\_user\\_rel2.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2023RPA_user_rel2.pdf)

しかし、その後に起きた生成AIの台頭などによって、RPAツールを取り巻く状況も変化している。上記のグラフでは「導入予定」が減少し、「導入無&予定無」が増加しているため、これまでと同様の訴求方法では更なる市場拡大は見込めない可能性がある。

また「導入済み&縮小」や「導入あり&廃止」は微増に留まるものの、「導入済み&維持」は減少、「判断不可」が増加となっており、縮小や廃止が今後増える展開も考えられる。こうした中で中堅・中小企業におけるRPA活用を再び活性化させるためには概ね横ばいとなっている「導入済み&拡大」の企業層における実態を把握し、それを手本とした「成功パターン」を見出す必要がある。この点については本分析サマリの1-3~1-4の章で詳述していく。

\*\*\*\*\*以下、省略\*\*\*\*\*

# レポート試読版2:「主要分析軸集計データ」

「設問項目」に掲載した設問結果を年商、業種、従業員数、所在地などの基本属性を軸として集計したものが、「主要分析軸集計データ」であり、Microsoft Excel形式で調査レポート内に同梱されている。以下の試読版に掲載したものは「A6. IT管理/運用の人員体制」を集計軸として本調査レポートにおける選択肢設問の結果を集計した結果の一部である。

以下のMicrosoft Excelファイル名は『【F系列】(【A6】表側).xlsx』となっている。【F系列】とは、本調査レポートにおいて数値回答を除いた選択肢設問(与えられた選択肢から選んで回答する形式の設問群)を指す。また、【A6】とは本ドキュメントの1ページに記載されたIT管理/運用の人員体制を示す企業属性であり、以下のような選択肢から構成されている。

- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が1名いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が2~5名いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が6~9名いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ兼任の社員が10名以上いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が1名いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が2~5名いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が6~9名いる
- ・ITの管理/運用を担当する役割を持つ専任の社員が10名以上いる
- ・ITの管理/運用は社内常駐の外部人材に委託している
- ・ITの管理/運用は非常駐の外部人材に委託している
- ・ITの管理/運用を担当する社員は特に決まっておらず、ITの管理/運用は全く行っていない
- ・ITの管理/運用を担当する社員は特に決まっておらず、その都度適切な社員が対応している

したがって『【F系列】(【A6】表側).xlsx』の結果を見ることで、IT管理/運用を担う人材が1名のみの場合(ひとり情シス)、2~5名、6~9名、10名以上の場合や専任/兼任の違いによって、RPA/NLDツール活用における現状の課題および今後の方針がどのように異なるか?などを確認できる。

同様に年商別の傾向は『【F系列】(【A1】表側).xlsx』(A1が年商区分を表す)、業種別の傾向は『【F系列】(【A4】表側).xlsx』(A4が業種区分を表す)といった集計データが用意されている。このように、ファイル名を見れば「どの設問を対象として、何を軸として集計したものか?」が把握できる。

主要分析軸集計データにおける設問数(選択肢設問の合計数)は計21設問あり、集計の軸となる属性は「A1.年商」「A2.職責」「A3.従業員数」「A4.業種」「A5.所在地」「A6.IT管理/運用の人員規模」「A7.ビジネス拠点の状況」の計7項目となっているため「主要分析軸データ」の集計データ数は21設問×7属性=147となる。(ただし「年商20億円以上~50億円未満かつ組立製造業」といったように、2つ以上の属性を掛け合わせたものを軸とした集計結果については本レポートの標準には含まれない)

※1 個々のシートは左記のようなレイアウトになっている。

※2 画面上部: ※1 軸を設定していない状態の縦帯グラフもしくは横帯グラフ

※2 画面中央: ※2 年商や業種といった属性軸を設定して集計した結果の数表データ

※3 画面下部: ※3 画面中央の数表データを横帯グラフで視覚化したもの

※3 集計データの種類や命名規則などの詳細は本ドキュメントの10~11ページを参照

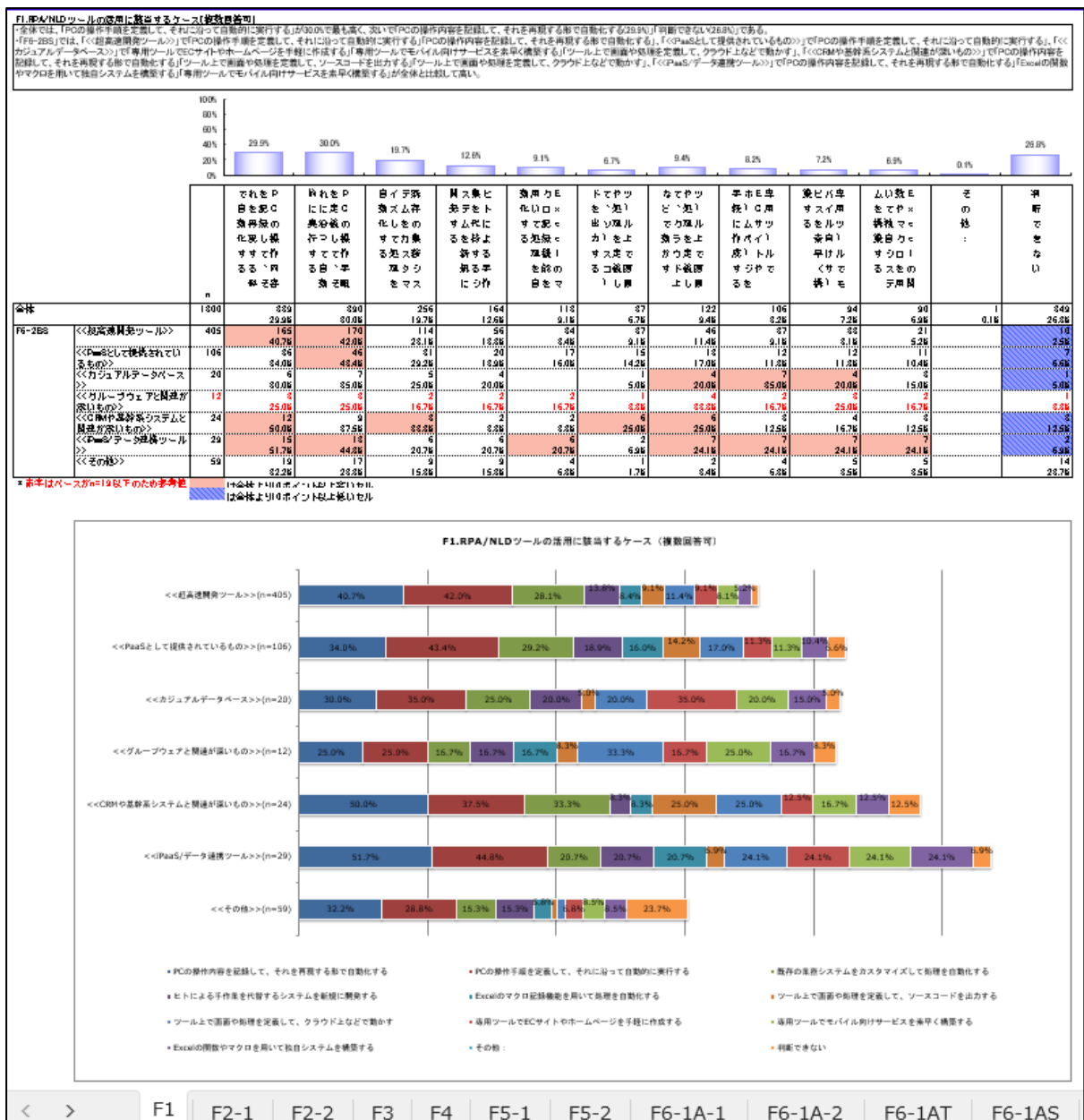
# レポート試読版3:「質問間クロス集計データ」

「設問項目」に掲載した設問結果を他の設問結果を軸として集計したものが、「質問間クロス集計データ」であり、「主要分析軸集計データ」と同様にMicrosoft Excel形式で同梱されている。

以下の試読版に掲載したものは本調査レポートにおける選択肢設問を設問F6-2BS「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」を軸(表側)として集計した結果である。このデータを確認することによって、ノーコード/ローコード開発ツールの種別に応じてユーザ企業の課題やニーズがどう異なるか?を把握することができる。

以下のMicrosoft Excelファイル名は『【F系列】(【F6-2BS】表側).xlsx』となっている。「【F6-2BS】表側」の部分は設問F6-2BS「最も主要な導入済み/導入予定のNLDツール」が集計の軸(表側)となっていることを示している。ファイル名の先頭にある「【F系列】」の部分は本調査レポートの選択肢設問が集計対象(表頭)となっていることを示している。このようにファイル名を見ることによって、「どの設問を軸としてどの設問の結果を集計したものか?」を把握できる。

個々のシートには画面上部に軸を設定しない状態の縦帯グラフもしくは横帯グラフ、画面中央には特定の設問を軸として設定した集計結果の数表データ、画面下部にはその数表データを横帯グラフで表したものが掲載されるといったレイアウト(前頁の主要分析軸集計データと同様)となっている。





## レポート試読版4:「公開リリース(サンプル/ダイジェスト)」

前頁までに掲載した紹介資料に加えて、ノークリサーチのホームページ上では各種調査レポートのサンプル/ダイジェストをリリースとして公開している。本調査レポートに関連するリリースは以下の通りである。

### ハイパーオートメーションを目指す取り組みがRPA市場の再活性化につながる

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024RPA\\_user\\_rel1.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024RPA_user_rel1.pdf)

**<AI活用が注目を集める状況を「複数業務の自動化」を実現するチャンスとして役立てるべき>**

- 「導入済み&拡大」と回答したユーザ企業の実態から「成功パターン」を見出すことが重要
- RPAツール活用における「ユーザ企業の認識」や「適用する場面や用途」を再確認すべき
- 「自動化すべき業務内容の判断」よりも「自動化できる業務内容の拡大」の方が重要課題
- AIの力を借りたハイパーオートメーションは中堅・中小向けRPA活用でも必要とされている

### RPAツールを適用する場面/用途と導入シェアが指し示す今後の要注力ポイント

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024RPA\\_user\\_rel2.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024RPA_user_rel2.pdf)

**<RPAツール活用の拡大/縮小/廃止などといった状況別にユーザ企業の実態を把握することが大切>**

- NTT-AT/ユーザックシステム/オープングループが上位、10位以内のシェア差は今後縮小
- 導入予定では業務システム/ソリューション/独自開発を基盤としたRPAツールにも要注目
- 最初から「手書き紙面処理」を訴求するのは避けて、まず「定型書式」から始めるのが堅実

### 中堅・中小のユーザ企業から見たノーコード/ローコード開発の現在地

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024RPA\\_user\\_rel3.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024RPA_user_rel3.pdf)

**<システムを作る側だけでなく、利用する側から見たノーコード/ローコードの現状理解が大切>**

- 「ノーコード/ローコード開発＝クラウドサービス」という誤解が広まらないように留意が必要
- 「クラウド間の連携」だけでなく「既存システムの機能追加」などの場面/用途も訴求すべき
- 「コーディングが意外と多い」よりも「実現できる画面仕様や処理内容の制限」が重要課題
- 「場面や用途に応じた複数ツールの使い分け」や「生成AI機能の取り込み」が今後の焦点

### ノーコード/ローコード開発ツールの活用状況、社数シェア、導入費用

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024RPA\\_user\\_rel4.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024RPA_user_rel4.pdf)

**<ノーコード/ローコード開発ツールの市場が今後も拡大していくためにはIT企業側の工夫も必要>**

- 「導入予定」が減少する一方で「判断不可」が増加、適切な情報発信と啓蒙が求められる
- 導入済みの社数シェアでは超高速開発ツール、導入予定ではPaaS形態のツールが優勢
- ツール導入費用が大きく変化する境界線は年商10億円/年商50億円/年商100億円の3つ

## 『2024年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート』

【レポートの概要と案内】 [https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp\\_rep.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_rep.pdf)

【リリース(ダイジェスト)】

グループウェアやWeb会議を起点とした生成AIの普及の第一歩

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp\\_gw\\_rel.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_gw_rel.pdf)

「コンポーザブルERP」は中堅・中小向けERP市場にも広まるか？

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp\\_erp\\_rel.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_erp_rel.pdf)

中堅・中小向け会計管理パッケージと経費精算サービスの役割分担

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp\\_acc\\_rel.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_acc_rel.pdf)

ワークフロー拡販に必要な視点は年商&運用形態+ERP導入状況

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp\\_wf\\_rel.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_wf_rel.pdf)

SaaSが中堅・中小向け生産管理システムにもたらす変化

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp\\_ppc\\_rel.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_ppc_rel.pdf)

販売・仕入・在庫管理はシェア差が縮小、CRM更新が新たな商機

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp\\_sbc\\_rel.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_sbc_rel.pdf)

勤怠管理を起点とした中堅・中小向け人事給与システムの進化

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp\\_hrw\\_rel.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_hrw_rel.pdf)

中堅・中小向けBI導入提案に不足している視点

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp\\_bi\\_rel.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_bi_rel.pdf)

法整備や経済安全保障が中堅・中小生成AI活用に与える影響

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp\\_p0\\_rel.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_p0_rel.pdf)

セールスフォース一強状態のCRM市場に変化は起きるか？

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp\\_crm\\_rel.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_crm_rel.pdf)

文書管理・オンラインストレージサービス市場の新たな成長段階

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp\\_dm\\_rel.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_dm_rel.pdf)

## 『2024年版 中堅・中小企業のIT支出と業務システム購入先の実態レポート』

【レポートの概要と案内】 [https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP\\_user\\_rep.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP_user_rep.pdf)

【リリース(ダイジェスト)】 17種類に渡る「ユーザ企業における成功体験」から導かれるIT導入提案のキーポイント

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP\\_user\\_rel1.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP_user_rel1.pdf)

中堅・中小企業における企業属性別(年商/業種/地域)&商材別のIT支出市場規模

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP\\_user\\_rel2.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP_user_rel2.pdf)

今後伸びるDX分野およびIT企業における成功体験スコアとDX比率の関係

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP\\_user\\_rel3.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP_user_rel3.pdf)

## 『2024年版 サーバ&エンドポイントにおけるITインフラ導入/運用の実態と展望レポート』

【レポートの概要と案内】 [https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC\\_user\\_rep.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rep.pdf)

【リリース(ダイジェスト)】

中堅・中小ハイブリッドクラウドの適用状況と解決すべき課題

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC\\_user\\_rel1.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel1.pdf)

中堅・中小サーバ環境におけるクラウド移行とオンプレ回帰の実態

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC\\_user\\_rel2.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel2.pdf)

HCI(ハイパーコンバージドインフラ)の導入状況、社数シェア、導入障壁

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC\\_user\\_rel3.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel3.pdf)

中堅・中小サーバ市場(オンプレミス&クラウド)のシェア動向

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC\\_user\\_rel4.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel4.pdf)

Windows 11への移行を阻害している要因とその打開策

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC\\_user\\_rel5.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel5.pdf)

中堅・中小エンドポイント環境のOSと端末/サービスのシェア動向

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC\\_user\\_rel6.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel6.pdf)

中堅・中小ストレージ環境の形態選択と活用課題の動向

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC\\_user\\_rel7.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel7.pdf)

## 『2024年版 中堅・中小企業のセキュリティ/運用管理/バックアップ利用実態と展望レポート』

【レポートの概要と案内】 [https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024Sec\\_user\\_rep.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024Sec_user_rep.pdf)

【リリース(ダイジェスト)】 中堅・中小企業のセキュリティ課題&ゼロトラスト導入とDX推進および生成AI活用の関係性

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024Sec\\_user\\_rel1.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024Sec_user_rel1.pdf)

中堅・中小企業におけるセキュリティ対策の実施手段、ベンダ選択、支出額の変化

[https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024Sec\\_user\\_rel2.pdf](https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024Sec_user_rel2.pdf)

本データの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。  
引用・転載のポリシー: <http://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>

本ドキュメントに関するお問い合わせ

**NORK RESEARCH**

株式会社 ノークリサーチ 担当：岩上 由高  
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-13-10 武蔵野ビル5階23号室  
TEL 03-5361-7880 FAX 03-5361-7881  
Mail: [inform@norkresearch.co.jp](mailto:inform@norkresearch.co.jp)  
Web: [www.norkresearch.co.jp](http://www.norkresearch.co.jp)